

園だより



令和5年度5月1日（月）

社会福祉法人 新田保育園
園長 大西 陽子

『かけがえのない時』

新年度が始まり1か月が経ちました。今年度の入園式は3年ぶりに在園児も参加し、新入園児も全員揃っての開催となりました。年間行事予定表も今まで自粛してきた行事が一部、復活。「実際に出来るかわからないから控えておこう。」から、「出来るかわからないけれど、もしかしたら出来るかもしれない。」の方向に、情勢と共に心も変化してきているように感じています。

さて、今回の園だよりでは新しい環境で過ごし始めた子どもたちの様子をお伝えします。0歳児みかん組は早くも友だちや先生、保育園という場所に慣れ始め穏やかに過ごしています。人に対して興味を示す姿が多く見られ、自ら近づいていったり触れようとしています。1歳児りんご組は新入園児が泣いている姿を進級児が気にかけています。かがんで目を合わせ、まるで「どうしたの?」と言わんばかりの表情で頭を撫でる姿には驚きました。2歳児ことり組は進級した喜びからか、なんだかおしゃべりになった気がします。ストーリーのある少々長いお話も「まだだめだよね」「もういいんじゃない?」とお話の世界に入り込み、参加しながら見えています。3歳児ひよこ組は赤い帽子に目を輝かせ、衣服の着脱や散歩の準備など自分たちで生活を進めようと張り切っています。給食室が近くなり自分でお代わりに行ける喜びも感じ、食欲も増加中です。4歳児りす組は友だち同士で目と目を合わせ、互いのお話に耳を傾けやすいようにとサークルタイムを設けています。今は保育士の投げかけに対して、次々、自分の思いを表現しており、伝えたい事が溢れていると言った様子です。話し合いが増えてくる今後、どのような姿が変わっていくのか楽しみです。5歳児ぞう組は合宿に向けての取り組みが始まっています。山登りの順番決めでは1番隊長が人気です。子どもたちには先頭に立ち、『後ろを登ってくる友だちに沢山の事を教えたい。』という思いがあるようです。なかなか決まらない隊長を順番に体験してみることにしました。「いろいろ、いいすぎだよ」「くちがつかれたよ」と実際に体験することで見えてきたものもあったようです。果たして教えるばかりが隊長なのでしょうか?友だちと過ごす毎日の中で沢山の事を感じ、大きくなっていったらと思います。

保育園には色々な友だちがいます。そのうちに気の合う友だちができ「あの子に会いたいから保育園へ行きたいな」「あの子と遊びたいからちょっと我慢してみようかな」「あいつはこういうやつなんだよな」と、計り知れない感情が育まれる事でしょう。「保育園の友だちは家族みたい」とここでの出会いが長い付き合いになっている話をよく耳にします。ここで過ごす仲間との時間がかけがえのないものになるよう私たちは全力で保育に携わっていかれたらと思います。

文責 石井あゆみ

5月の予定

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	13月	14月	15月	16月	17月	18月	19月	20月	21月	22月	23月	24月	25月	26月	27月	28月	29月	30月	31月	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
5月																																
	頭シラミチェック		憲法記念日	みどりの日	子どもの日				避難訓練	健康体育			誕生会・写真の日					健康診断(0・5歳児)		ぞう合宿荷物点検					ぞう合宿							

主任のつぶやき



1年生になったばかりの息子が学童の迎え帰りに「きょう、ほいくえんいきたい」という事が何度かありました。姉には見られなかった思いもよらない発言に答えるべく「よし、今日は就寝ずれずれプランだな」と気持ちを切り替え先生に頭を下げ学童帰りに保育園へ寄るのでした。保育園のそばまで来ると片づけの鈴の音が聞こえます。「あ、かたづけてつだおう」「リーダーちゃんとやってんのかな」と息子が気にかけているのは自分が年長だった時の年中、年少の子どもたちのことのようにです。さて、保育園へ入って実際に何をするかと言うと何をするわけでもなく。「あ！〇〇（名前）だ」と囲まれるのをなんだか嬉しそうにしているばかり。「かたづけやらないの？」と聞いてみると「けっこうかたづいてるから」とあっさり断られ、ランドセルを皆に見せてみたりよくわからないけれど横続きのクラスを一通り周り皆に自分が来たことを知らせて歩きます。滞在時間はほんの10分程度。

本当のところはわかりませんが彼はおそらく栄養補給のような気持ちできているのかなと思っています。急に現れ申し訳ない気持ちといつでも迎え入れてくれる保育園に感謝。今でも名前を憶えていてくれる友だちに感謝。卒園しても息子の寄りたい存在場所があることに感謝。そう思える心を育ててくれたことに感謝。

彼が保育園時代に言った言葉で印象的だったのは「〇〇はこういうやつだからさ」と仲間のいい所も悪い所も理解して受け入れたような言葉。きっと数えきれないくらいの喧嘩をしてきた事でしょう。話し合いをしてきた事でしょう。遊んできた事でしょう。私もいっぱい動揺し、頭を下げ保育園時代を駆け抜けてきました。

今を思いっきり生きる。仲間と泣いたり笑ったりして感情豊かに生きる。それがきっと大切。息子を通して改めて保育園の存在、友だちの存在の大きさを感じました。

